

【随筆】

釣りもタンチョウも忙しい！

住 吉 尚

(釧路支部)

5月15日のことです。今日は釧路から西側でタンチョウの観察を！と出かけてみました。でもあまり遠くへは行きたくありません。十勝川河口橋あたりまでと思いつきながら走り始めました。すると、厚内漁港に沢山の釣り人が。無類の釣り好きですから「何が釣れているんですか？」と。どうやら20 cmほどのコマイがぼつぼつ釣れているようでした。さらに走って、河口橋近くの私がこの日一番観察できるかと期待していた場所には、10台ほどの車が畑に入っています。種まきでしょうか、なにやら作業中で私としてはガックリでした。当初はここで引返す予定でしたが、もう少しとさらに走って次のポイントへ。国道の下流側には毎年のようにヒナ連れが見られるのですが、本日は1羽のタンチョウも見つかりません。今度は国道の上流側へ。すぐに牧草地の縁で2羽のタンチョウが。しばらく見ていましたがヒナらしいものは見えません。それではさらに上流部へ。こちらは道路脇の堆肥山に2羽のタンチョウが。足元がすべて見えただけではありませんが、ヒナはいなさそうと判断して帰ることに。すると先ほど見た2羽のタンチョウが同じ場所にいました。しかもタンチョウの足元が見えそうな方向へと農道があるではありませんか。ヨッシャ、入って見よう！車を入れます。先ほどは2羽とも牧草地で餌探しをしているように見えたのですが、今度は1羽だけが前と同じように、そしてもう1羽は草地の縁に座っています。少し様子を見てみると、座っていたタンチョウが立ち上がりました。残念、ヒナはいないようです。あきらめて車を戻そうとした時でした。親鳥が座っていた場所から2羽のヒナが立ち上がったではありませんか。慌ててカメラを出し写真に収めました。こんな場合、立ち上がった時にはカメラを構えていて、ヒナが見えたらすぐ撮るのが良い写真の撮り方でしょう。時間が経つと私が見ているのを知っていますから、私から遠ざかる方向にしか移動しないので、背中向きの写真になってしまいます。ただ私の写真はどこで何をいつ見たかの記録用ですから、皆さんにお見せするような写真ではありません。でも今回はこの写真しかないのです、少しピンボケですが載せて



5月15日に見た親子

みました。5月15日現在の野生のタンチョウのヒナはこのぐらいの大きさなのだなーと、思ってもらえると良いと思います。これが私が今年初めて見たヒナです。普通は1回ヒナを見ると次々見るということが多いのですが、今回はそんなに甘くはありませんでした。音別、白糠方面を見ながら帰って来ましたが、ヒナどころか親鳥の姿も見えずじまいでした。それで仕方なくと言う訳ではありませんが、食べごろのタランボが道路脇に見えたので、これを一握り採って夕飯のおかずにと！採ることに。道路脇の切通の斜面はササの茎が滑って簡単には登れません。おまけにタラの木は棘だらけですからその芽を採るのは簡単ではありません。やっと一握りのタラの芽を採り、夕飯に酔味噌をあえていただきました。

釧路でも今年は気温が高い日が多く、庭の野菜も順調なので5月下旬のある日、庭に植えたエンドウに手柴を立て、買って来たトマトとキュウリの苗を植える作業をしていると電話が鳴りました。「今どこにいる！」「家にいますよ！」「実はタンチョウのヒナを拾って持ってきた人がいるので返しに行くのだが、ことによっては手を借りる場合があるかもしれない！」とのこと。こんな場合に場所がはっきりしていれば、拾った場所に返しに行くことになります。野鳥の繁殖時期にはこんなことが時々あり、色々な野鳥や野生動物のヒナや幼獣が拾われて動物園などに持ち込まれることがあり、対応に苦慮することもしばしばなのです。最近では白糠でアザラシの幼獣の保護が相次いだ！との報道もありました。アザラシの幼獣はもう自力で採食できる状態なので、健康状態さえ問題なければすぐにでも放流してやれます。でも動物は種によって大変保護が難しい場合もあります。一番はやはりクマの子でしょうか。現在は「クマの子を持ってこないように！」を徹底しているようです。私がクマの仕事の始めた頃は春グマ駆除が盛んに行われていまし

たから、クマの子が拾われることも多かったと記憶しています。私が最初に芸を教えたクマは、道北の遠別町で農家の庭先に出てきたクマの子を、高校生の女の子がザルで伏せて捕まえたものでした。親にはぐれて途方に暮れていたのでしょうか、簡単に人に馴れてくれましたが、今では「とんでもない！」とおしかりを受けるでしょうね。そして私が釧路の動物園に勤務するようになった頃、急激に増えたのがシカの子でした。現在は増えすぎて害獣のイメージが浸透しているのか、子ジカが保護されることはないようです。この子ジカを人工的に育てるのは大変な苦勞を強いられます。まずシカの子はヤブの中に座っているのが普通なのです。親は日に数回子供のところに来て乳を与えると、また離れていきます。この時、親は人間は怖いものだと思っ先に教育するのでしょうか。このため、人間が乳を与えようとしてもほとんど受け付けません。辛抱強くやって育ったとしましょうか。こうして人に馴れたシカが雄だと必ず秋になると人に向かってくるようになります。人に馴れるということは人と自分が同じ仲間だという意識になるのでしょうか。人を倒さないで自分が雌を獲得できないとの思いから人を攻撃するのです。野生で育ったシカは自分と人は違う動物であるということを自覚しているので、よほど追い詰められでもしない限りは人に向かって来ることはありません。野生動物は家畜とは違いますから、人慣れが人を危険にすることも多いのです。くれぐれも人慣れた野生動物にはご注意ください。



シカが珍しい時代もあったのですが

先ほどのタンチョウのヒナのその後のニュースを。現場近くにタンチョウがいたので、ヒナが見えるところまで親を追い立て、頃合いを見てヒナを放しその場を離れたとのこと。その数日後の観察によれば親子が一緒に行動しているのが観察できたとのことでした。私もホッとしました。

我が家の近くの道路脇にエゾノコリンゴの木があって、毎年エゾシロチョウがこの木の葉を食べてチョウになっていました。でも昨年秋にこの木が切られてしまいました。エゾノコリンゴは美原団地ができた時には丈夫であることからあちこちに植えられていましたが、枝がゴチャゴチャとしていて棘もあり、おまけに虫が付きやすいことから、嫌われるようになったのでしょうか？今ではあまり見当たりません。団地周りの緑道沿いの東側1/3ほどを探してみましたが、私には1本しか見つけられず、しかもその木にはエゾシロチョウの幼虫は見当たりませんでした。このチョウは幼虫で越冬し木が葉を広げようとし始める時に、そのやわらかい葉を食べて成熟し、さなぎになって6月中にチョウになって飛び回ります。その後もあちこち探しているのですが未だに見つけられないです。ご近所のヒメリンゴに似たような幼虫がいましたが、こちらは梅毛虫とよく言われるガの幼虫のようでした。私はガはあまり詳しくないのでうろ覚えですが、カレハガの仲間でしょうか。チョウは良くてガはダメと言うのは人間の身勝手ではありますが、北海道だけにいるエゾシロチョウをもう少し大事にしても良いと思いますが、どうでしょうね？



これは梅毛虫でしょうか

先日標津まで行き、港をのぞいてみるとチカ釣りを楽しむ人たちが。なんでこの時期に？と思いましたが、どうやら標津では5月中旬から6月初めにかけてチカが産卵するようです。私が良く釣りをする浜中方面では4月が中心で、ゴールデンウィークには終了していることが多いようです。と書きながら思い出しましたが、標津ではニシンが5月下旬に産卵したのだとか。小樽などでは早い時は2月中旬にニシンの産卵が見られると言います。北海道は海に囲まれていますね。この中で最も暖かい海は日本海です。函館、江差などが冬でも海水温が高い方

でしょう。釣り番組では津軽海峡の北海道側でも狙ってマダイが釣れるとか。これは地球の温暖化の影響でしょうかね。この日本海側を流れる暖流が北海道の沿岸に沿って宗谷海峡を回り、オホーツク海側の沿岸に沿って知床半島まで流れ、根室海峡へと回り込みます。このためでしょうか、海の温暖化の影響で道東では最初に羅臼でブリやシイラが釣れ始めました。一方、冷たい千島海流に直接洗われる根室から襟裳岬までが海水温としては最も冷たい海でしょう。こんな根室海峡ですが、対馬海流の勢いが最も強くなる秋にはブリやシイラを運んでくるのですが、流水が融けたばかりの春の海は暖流の影響が弱く、冬季には強くなる千島海流の影響を受けるので、太平洋側より冷たいのかもしれないね。港で釣れる小魚に地球規模で流れる海流の影響を推測して見ましたがどんなものでしょう。専門家なら鼻先で笑うかもしれないね。私が不思議に思っているのは、花咲ガニが根室海峡ではなぜ獲れないのでしょうか。単に海水温の影響だけではなく、カニの幼生が海流に乗って分散するので、千島海流が直接ぶつかる千島列島から根室半島から釧路にかけての沿岸にだけ分布しているのかな？誰か知りませんか？

もう6月も半ばになりますね。今月末からタンチョウに足輪を付ける作業が始まります。これには先ず足輪が付けられるようなタンチョウのヒナを探さなければなりません。こうしてどこにどのぐらいの大きさのヒナがいるかを見たいうえで、何時からそしてどこから始めるかを決めます。ヒナがあまり大きいと飛んでしまいますから捕まえられません。ある程度大きくて、しかもまだ飛べないヒナが良いのですが、人間の側の都合ばかりは聞いてくれません。そこで大きなヒナが見つかった場所から捕獲作業を始めるのです。でもいつも見つかるとは限りませんよね。空振りも多いのです。そこで次のターゲット、そしてその次のターゲットと沢山の候補を見つけておかなければならないのです。

とは言え、タンチョウのヒナはそんなに簡単には見つかりません。と言うことで、事前にあちこち走り回ってヒナ探しをしていると言う訳です。昨日は風蓮湖まで行って、その前の日は音別、白糖方面とか、近くは標茶、鶴居界限、と言う風に毎日のように走りまわっています。十勝方面の状況はあまり良くなく、4月に洪水があつて巣が流され、繁殖をやり直した個体が多いとか。こうなるとヒナがまだ小さく、捕獲作業は7月末になるかもしれません。おまけに今年は日高山脈の西側でもタンチョウのヒナに足輪を付けてほしいとの希望もあって、調整



干潟でくつろぐ親子（6月5日）

が大変そうです。しかもこの間を縫ってコロナウイルスワクチン接種もやる予定ですからどうなりますやら。ところでコロナワクチン接種予約は皆さんお済ですか？私は75歳を過ぎていますから7日から予約開始となりました。のんびり午後からでもいいかな？と思いながらやってみました。ネットは良く判らず、電話は繋がらずと、テレビのニュースそのままでした。夕方になってやっとネットでの方法が判り、予約を入れてみましたが、すでに病院関係は満員とのことで、釧路での大規模接種会場である国際交流センターでやることになりました。でも最近のニュースでは混みあうのは初めだけで、あとはさっぱり予約が入らないとか。釧路も同じでしょうかね？

話はとんでもない方向へと飛んでしまいましたが、タンチョウのヒナ探しです。私はどちらかと言えば釧路から東側を狙ってと思って行動してはいるのですが、これがなかなかの曲者で搜索範囲が広い、人が入れない湿原が多いと言うことで良いターゲットに出会えないでいます。こんな中ですが久しぶりに風蓮湖畔の干潟でのんびり昼休みをしているタンチョウの親子を見ることができました。なぜか最近では天然の干潟でヒナを育てているタンチョウが見当たりません。その一方で、こんなところで子育てですか？と言いたくなるような場所での繁殖も見られます。タンチョウの世界も変わりつつあるようですよ。